

茨城県取手市にある「拝借景」。絵画や彫像などを手掛ける若手アーティストたちが支援者の「家」を拝借して、表現活動と共同生活を行っている。アーティストたちの多くは芸術系大学の修士、博士課程出身で国内コンテストでの入賞経験も豊富である。

活動はここにとどまらない。東京・表参道のヘアサロン「NORA」の店内を活用して作品を展示している。そこでは気に入った作品があれば買つこともできる。彼らの視線は日本には

VB経営 虎の巻



世界に羽ばたく起業家育成

ない。今後の活動の場を海外に求めているという。

海外で活躍する日本人と

言え、イチロー、ダルビッシュ、本田、香川といったプロスポーツ選手の名前が想起される。芸術やスポーツの領域では年々増えて

いる人は希有だ。今後の日本の経済成長のためにも、世界を舞台に活躍するベンチャー企業やそれを志向する若い世代が出てくることを期待したい。そのためには少なくとも2

識調査を見ても「世界で活躍する」ことを目標にしてきたくま)した逸材が世界で活躍している。「起業」についても同様

の環境が必要だ。中学、高校から「起業」について関心を持ち、切磋琢磨する機会があるという。ロボコン

活性化するだろう。2つ目は高校、大学で、入試による入り口管理をやめ、成し遂げたことを評価・認定する出口管理にすること。知っているか知らないかを問われる試験対策ではなく、「できるかできないか」を実践的に問われることに時間とエネルギーを割くことになる。

学生時代から環境整備を

一方、「ビジネスの世界で活躍する日本人、日本企業は……」という心もとない。若い世代の数々の意

つ環境整備が必要だ。まのよう、若い世代のビジネスコンテストがたくさん

のよう、若い世代のビジネスコンテストがたくさん

が、「いい学校に入って大企業に就職」が子供の幸せと考える親世代の意識を変

が、感謝したり、感化される人が増える。この喜びを若い世代に実感させたい。このためには、ベンチャー企業を立ち上げた人たち



インディゴブルー社長 柴田 励司氏

1985年上智大文卒。マザー・ヒューマン・リソース・コンサルティング(現マザー・ジャパン)社長などを経て、2008年カルチュア・コン

管理」から着手すべきだろう。いいかげんに「5教科7科目」の優秀で人生の評価が決まるかのような単線思考を変えたい。自分で何かを創り、それに共感した